



きみの力を発信!! ~田舎暮らしの魅力とは?~

紀美野町では、7年前から移住・定住の取り組みをまちぐるみで行っています。今回は、NPO 法人きみの定住を支援する会のみなさんにお話をうかがいました。



きみの定住を支援する会のみなさん

きみの暮らし講座が開催されます

田舎暮らしに興味がある方向きの実験的家庭菜園ワークショップを開催します。是非参加してみませんか?
 ■循環型家庭菜園体験
 10月14日(月) 前編「光変換ピンク農法の実験」
 11月17日(日) 後編「竹を利用した栽培の一例」
 【会場】みさと田舎館駐車場
 ■炭焼き薪作り体験ワークショップ
 10月20日(日)「炭焼き・もみから燻炭づくり」 締切10月11日
 11月10日(日)「焚き火のコツ・薪割りのコツ」 締切11月1日
 12月7日(土)「チェーンソーの正しい使い方」 締切11月29日
 1月18日(土)「がんがんやるぞ!炭焼き・薪割り」 締切1月10日
 【会場】紀美野町立神野小学校(休校中)
 いずれも【時間】9:00~16:00【定員】15人【参加費】500円
 申込み・問い合わせはきみの定住を支援する会まで。

きみの定住を支援する会設立
 大阪出身でNPO法人きみの定住を支援する会の理事長・平井二嗣さんは、昔から田舎暮らしへの憧れが強く、街から近い美里町(現・紀美野町)へ移住を決めました。
 移住に際し、役場に相談したところ、ちょうど空き家になっていた古民家を紹介してもらいました。その際、地域の方にもお世話になったそうです。
 そして06年夏、「地域の人たちに恩返しをしたい」「地域を元気にしていきたい」という思いで「きみの定住を支援する会」を地域の方と共に立ち上げました。
色々な角度から移住後をサポート
 きみの定住を支援する会では、移住・定住者向けに様々なサービスを実施しています。町内に移住、定住者向けにガイドブック「紀美野で暮らす」を作成し、新生活をスムーズに送ってもらうため、都会との違いや田舎暮らしのノウハウを紹介しています。
 例えは「出会ったら誰にでも挨拶を」「田舎のものさし・慣習や文化が違います」など、先輩移住者からのアドバイスや、住宅や農地の契約方法、地域との付き合い合いの仕方まで、移住者にとって力強い一冊になっています。
 また、近くに親戚や友人が少ない方には、大きなトラブル(けが、病気等)が起こった際、駆けつけたりしています。「べったりした接し方ではないので

す。移住者の方は近所の方や大家さんから情報を得て、地域の方々に溶け込むよう努力しています。我々が細やかに関わりすぎると、かえって地域とのつながりが薄くなってしまいますから」と理事長の平井さんは言います。
目標をもった人が向いている?
 田舎暮らしにあこがれ、移住の相談に来る人は数百件にのぼっていますが、現在は約40組の家族が移住しているそう。
 ただ、移住に成功している人の多くは特徴があるそうです。
 例えは、パンやフランス料理のシェフ、家具や棕櫚ぼうきなどの職人およびばれる方々、また、農業で自給自足を目指す方や、子どもに綺麗な空気の中で生

NPO 法人 きみの定住を支援する会
 事務局: 紀美野町役場美里支所内
 TEL/FAX: 073-495-2339
 E-mail: kiminoteiju@blue.plala.or.jp

活かせたいなど、いわゆる「こだわり」や「目標」を強くもっている人が多いとか。
 その「こだわり」から地域の名産品が生まれています。
 田舎暮らしは楽しい事も不便な事も多くあります。ただ、その不便さから色々な可能性が生まれてきている事を感じます。
 (植田祐起代)

地元力財団の設立を記念して実施した「わかやま地元力 AWARD2013」。
 7月27日に表彰式を開催し、採択団体の皆さんに今後の展望をお聞きしています。
 採択団体はこちらでご覧いただけます。http://jimotoryoku.jp/award/



特定非営利活動法人子ども NPO 和歌山県センター 理事長 岡本瑞子さん

どのような「ほっとけない」地元の課題に取り組んでいますか?

私たちは、18歳までの子どもの声を受け止める「チャイルドライン」を1999年から運営しています。いじめや性に関する相談がとて多く、相談できる大人が身近にいないことは深刻な問題だと考えています。電話をかけてくる子どもたちは、親や学校について非難する発言をしますが、本心では周りの人たちのことを大人が想像する以上に考えつめています。

本当のことを話せる大人を探している子どもたち、ここだったら自分の話をじっくり聴いてもらえると感じる子どもたちにとって、チャイルドラインは今後も必要不可欠な取り組みです。また私たちには、子どもの声を批判せずに耳を傾ける姿勢が問われています。

採択を機にどのような活動を展開していきますか?

成果が見えにくくこれまで評価されてこなかったチャイルドラインが、わかやま地元力 AWARD2013 に採択され、地元へ欠かせない取り組みとして認められたことが嬉しいです。特に数多くの悩みを受け止めてきたボランティアにとつ

て、大きな自信になりました。これまでは寄付に対して「頂く」という姿勢でしたが、今後は寄付を通じて活動に参加してもらえらる仲間を積極的に探していきたいと考えています。

応援パートナーの皆様メッセージをお願いします。

チャイルドラインは収益が見込めない事業ですので、多くの方にこの存在や意義を知っていただき、支援会員として私たちの活動を支えていただきたいと思います。

また、チャイルドライン事業への寄付については、1,000円から受け付けておりますので、引き続きのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

information
 特定非営利活動法人子ども NPO 和歌山県センター
 〒640-8028 和歌山市匠町 29 電話 073-432-3664
 メール kodomo-npo@e-ml.net HP http://kodomo-waka.org/

みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- 第26回和歌山矯正展
 全国の刑務所からの作業製品の展示販売のほか、取り組み紹介なども。
 日時 10月5日(土)・6日(日) 10:00~16:00(6日15:00まで)
 場所 和歌山刑務所
 内容 受刑者が製作した作業製品の展示販売、和太鼓や中学校吹奏楽部の演奏、ゆるキャラ集合、震災復興支援チャリティカットなど
 入場料 無料
 問い合わせ 矯正協会刑務作業協力事業部・和歌山地方事務所(073-476-2033)
- 隅田八幡神社秋祭り
 橋本市東部の隅田地区に伝わる和歌山県指定無形民俗文化財指定の勇壮な祭りです。
 日程 10月6日(日)
 場所 隅田八幡神社周辺(JR和歌山線隅田駅から徒歩)
 内容 勇壮で壮観な引き車や、100人近くで担がれるだんじりが地区内を練り歩きます。
 問い合わせ 橋本市役所商工観光課(0736-33-1111・代表)
- 商店街の未来は既存建築活用と新陳代謝で決まる
 商店街活性化や「リノベ

ション」について考えます。
 日時 10月10日(木) 19:00~21:00
 場所 和歌山市男女共生推進センター6階ホール
 講師 木下齊さん(一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事)
 参加費 無料(事前申込み必要)
 問い合わせ・申込み NPO法人市民の力わかやま(電話・FAX 073-428-2688)
 ●歴史かふえ
 専門家と市民のみなさんが飲み物気軽に歴史について意見交換をします。
 日時 10月11日(金) 13:30~15:00
 場所 インターレーン 2階(和歌山市ぶらくり丁商店街内)
 テーマ いま、すし王国紀州を語る一その食文化と背景
 講師 鈴木裕範さん(和歌山大学経済学部教授)
 参加費 500円(1ドリンクつき)
 定員 20名(事前申込み必要)
 問い合わせ・申込み 和歌山大学地域連携・生涯学習センター(電話 073-435-5472・FAX 073-427-7616・E-mail machikado@center.wakayama-u.ac.jp)

このほかの情報もたくさん掲載!
 「わかやまイベントボード」URL
 PC版 http://eventboard.shiminjuku.jp/
 携帯電話版 http://eventboard.shiminjuku.jp/m/